

第1回堤防調査委員会（常呂川、空知川、十勝川、合同委員会）
議事要旨

1. 日時 : 平成28年9月30日（金）10:00～12:00
2. 場所 : 北海道開発局研修センター 1階 会議室
3. 出席者 :
 - 清水 康行（北海道大学大学院工学研究科 教授）（空知川委員長）（座長）
 - 渡邊 康玄（北見工業大学社会環境工学科教授）（常呂川委員長、十勝川委員）
 - 泉 典洋（北海道大学大学院工学研究科教授）（十勝川委員長）
 - 佐々木 康（広島大学名誉教授）（空知川委員）
 - 川口 貴之（北見工業大学社会環境工学科准教授）（常呂川委員、十勝川委員）
 - 西村 聡（北海道大学大学院工学研究院准教授）（空知川委員）
 - 林 憲裕（寒地土木研究所寒地地盤チーム上席研究員）
（常呂川、空知川、十勝川委員）
 - 矢部 浩規（寒地土木研究所寒地河川チーム上席研究員）
（常呂川、空知川、十勝川委員）

4. 議事概要

- ・事務局から出水及び被災概要、被災メカニズムの検証、堤防決壊区間の本復旧工法等について説明し、堤防決壊原因、堤防決壊区間の本復旧工法について事務局案が了承された。

<常呂川水系柴山沢>

- ・堤防の決壊原因は、常呂川の背水に伴う水位上昇による越水と考える。
- ・常呂川本線における水位低下対策についても実施する必要がある。
- ・2回目以降の堤防調査委員会では、堤防を越水したが決壊に至らなかった箇所や漏水した箇所に関する事項についても議論していく。

<空知川>

- ・上流箇所の堤防決壊の原因は、越水・侵食が複合的に発生したものと考える。
- ・下流箇所の堤防決壊の原因は、堤内側からの越水による川表・天端の崩壊と考える。
- ・決壊箇所を復旧するのみではなく、決壊箇所上下流部、河道形状も含めて検討すること。
- ・下流決壊箇所では、内水排除のための釜場の設置等、浸水に対応した対策について検討していく必要がある。

<十勝川>

- ・札内川KP25.0の堤防の決壊原因は、堤内側からの越水による川表法面部の洗掘と

考える。戸蔦別樋門からの漏水が原因とは考えにくい。

- ・ 札内川KP40.5、音更川KP21.2の堤防の決壊原因は流路変動による侵食と考える。
- ・ 過去に札内川KP12.6右岸で試験的に実施した原位置攪拌固化護岸工法の侵食防止効果について調査結果を整理すること。
- ・ 札内川、音更川の河道安定化の水制工の設置にあたっては、上下流への影響等を踏まえるべき。
- ・ 河川監視カメラは、堤防決壊などの記録に有効な設備である。

三河川共通

- ・ 氾濫への河道内樹木等の影響について、検討、検証すること。
- ・ 堤体への浸透に関しても整理しておくこと。
- ・ 堤防決壊直後の調査内容、既往調査結果等の関連する基礎資料を整理しておく必要がある。
- ・ 現況復旧に止まらず、より質の高い堤防やその周辺も含めて整備していただきたい。